

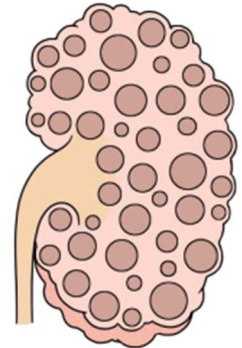
常染色体優性多発性のう胞腎 (ADPKD) の治療が当院でも可能となりました。

腎臓にのう胞が多数出来る病気です。

- 常染色体優性多発性のう胞腎 (ADPKD) は、腎臓にのう胞 (尿の貯留した袋) が多数でき、徐々に大きくなることで腎機能が低下していく**遺伝性**の病気です。
- 70 歳までに約半数の患者さんが、透析療法が必要な末期腎不全になります。
- 30~40 歳代頃までは、ほとんど症状があらわれない事が多いですが、のう胞腎が大きくなるにつれて、お腹のまわりが太くなり、痛みや血尿、尿路結石やのう胞の感染症等があらわれることがあります。
- ADPKD は、**遺伝するタイプの腎臓病としては最も多い病気**で、国内に3000 人に 1 人の割合で患者さんがいらっしゃいます。



正常な腎臓



多発性嚢胞

多発性のう胞腎 (ADPKD) は
難病医療助成制度の対象疾患です。

- 平成 27 年から、難病患者さんへの医療費助成制度が変わり、ADPKD が新たに助成の対象となりました。
- ADPKD の治療では、腎機能の低下を抑えるために、降圧療法や食事療法などが行われます。
- 最近、のう胞の増大に対するアプローチができるようになりました。



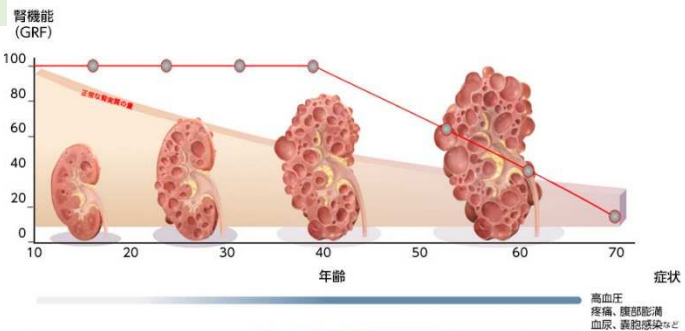
多発性のう胞腎 (ADPKD) の
主な症状・合併症

<主な症状>

- ・腹痛 腰痛 背部痛
4~6 週間以上、毎日痛みが続く
- ・血尿
のう胞の細い血管からの出血が原因として起こる
- ・腹部膨満感
のう胞が著しく大きくなり、胃や腸を圧迫する為、
食欲が無くなる。

<合併症>

- ・のう胞出血
- ・のう胞感染
- ・高血圧症
- ・脳動脈瘤
- ・心血管障害
- ・尿路結石



70歳までに約半数が末期腎不全に至るとされる

監修:東京女子医科大学 第四内科
講師 望月俊雄 先生

多発性のう胞腎 (ADPKD) の主な治療法

◎内服治療 (製品名サムスカ)

→2014 年 3 月末に日本国内において、多発性のう胞腎の治療薬として認可されました。のう胞が大きくなるのを抑制する事が証明された初めての治療薬です。この薬は処方する資格を持った医師のみが処方出来ます。初回内服時には入院が必要となります。

◎降圧治療

→腎機能の悪化を抑制する為には、血圧を適正に保つことが重要です。始めに生活習慣を見直していくことから始めます。それでも血圧が下がらないようであれば、降圧薬の服用が勧められます。

◎人工透析療法

→ADPKD により、末期腎不全の状態に陥り、老廃物や余分な水分を排出する事ができなくなり人工透析を必要とします。

◎腎移植術

→透析療法以外の選択肢として腎臓の移植術があります。腎臓の移植には献腎移植 (死体腎移植) と生体腎移植があります。